

# HBS研究部だより



Vol. 8

## 巻頭言



## 新任のご挨拶—サイエンスマインドの下に

● 新研究部長 林 良夫

平成20年4月1日付けで徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス (HBS) 研究部の研究部長を拝命致しました。ご挨拶を兼ねてはじめて研究部だよりを書かせて戴きます。平成16年4月HBS研究部創設以来、曾根初代研究部長をはじめ構成員のご努力で現在まで築かれてきた徳島大学における生

命科学系統合大学院をさらに充実発展させていくという大きな使命と責任を感じております。周知のように、HBS研究部は医科学教育部、口腔科学教育部、薬科学教育部、栄養生命科学教育部の全教員がサイエンスマインドの下に結集し、全国でも類をみない生命科学系における統合された大学院として創設されました。平成20年度4月からはさらに保健科学教育部がこれに参画し、3学部5教育部体制として運営されることになっています。発足以来4年間、医療・健康・疾患をキーワードとした総合的な大学院構想が具現化され、基礎生命科学を基盤として新しい医療の創出と社会の多様な要請に応える高度専門医療人ならびに国際的に活躍できる研究者の育成を目指す教育研究拠点と位置づけられています。この構想は社会的な要請に応えるべく質の高い医療による地域社会への貢献という見地からも大きな役割を果たすことが期待され、またその責任と使命とが絶えず問われています。健康生命科学(ヘルスバイオサイエンス)における質の高いより高度な専門性と独自性を大きな目標に掲げ、国内はもとより世界で勝ち抜く競争力を発揮できる教育研究上の基盤整備が不可欠であると思います。これらを実現するためにはHBS研究部の教育研究基盤の専門性と独自性を生かした連携プロジェクト研究を積極的に推進し、それを担う若手研究者や高度専門医療人を持続的に育成するシステム構築が必須です。さらに同じ蔵本地区にある疾患酵素学研究センター、疾患ゲノム研究センター、また研究部と表裏一体の共通課題を担う大学病院の活動と今まで以上に連携を強化する必要があると思われま。本格化している少子高齢社会において、14年連続糖尿病死亡率全国ワーストワンという汚名を返上し、健康長寿と安心できる質の高い社会生活を実現していくために様々な疾患の病因解明や新規治療法の開発、さらには予防へシフトした系統的な医療技術の開発と同時に、幅広い専門知識を持つ人格の優れた医療人の育成、各専門職業人によるチーム医療の確立が求められています。医・歯・薬・栄養・保健の各系より構成される大学院教育部は総合的なチーム医療戦略の構築にとって格好の条件を備えており、さらなる連携強化によって教育上の相乗効果を存分に発揮できるものと考えられます。そのためにも各教育部の教育連携を推進する医療教育開発センターの活動は極めて重要な役割を担っており、今後も魅力的な共通カリキュラムや若手研究者育成プログラム策定等さらにその活動を重点的に活性化することが必要と思われま。

国立大学は法人化以降5年目を向かえ、その在り方をさらに大きく変貌しようとしています。「選抜と集中」がキーワードとされ、平成19年度より「世界トップレベル研究拠点プログラム」が開始されています(約70億円/年)。この制度は世界の第一線の研究者が多数集まってくる優れた研究環境と極めて高い研究水準を誇る「目に見える研究拠点」形成を目指しており、既存の大学の壁を大幅に打ち破った点において画期的だと思われま。一方、一般の国立大学は厳しい統廃合の嵐が水面下で静かに進行していると思われま。各国立大学への運営費交付金の削減のもとで、競争的外部資金なしでは研究活動が成立しないという現状が既に定着しています。さらに医学科・歯学科では卒後臨床研修の義務化以降、大学院充足率を充たす用途は全く立っていないという状況を如何に打開していくのか、何らかの具体性のある行動が必要ではないかと考えられます。新聞報道によれば、東京大学や東京工業大学では平成20年度から、全ての博士課程大学院生に大規模な経済的支援を行うとされています。多くの国立大学が大学院大学として重点化・部局化されている以上、大学院生の確保が生き残りに不可欠な条件であり、このような動きがあることは注目に値します。いずれにせよ、極めて厳しい環境下におかれているという危機意識を共有し、HBS研究部としてそれぞれの専門性と独自性に準拠しつつ大学院生が全国から、そして諸外国から集まってくるような魅力あるサイエンスの恒久的構築が緊急の課題ではないかと思われま。以上、課題は山積していますが、各副研究部長、医療教育開発センター長との連携にて一歩ずつ全力で取り組んでいく所存ですので、ご協力の程よろしくお願い致します。

### 目次

新任のご挨拶	p. 1
新研究部長 林 良夫	
研究部長の任を終えて	p. 2
前研究部長 曾根 三郎	
最近の科学研究費補助金の動向	p. 2
産科婦人科学分野 荻原 稔	
特集・各教育部より	p. 3
●中国・四国広域がん栄養プログラム	
呼吸器・膠原病内科 埴淵 昌毅	
放射線科学分野 西谷 弘	
医療教育開発センター 寺嶋 吉保	
消化器・移植外科分野 栗田 信浩	
医薬品機能解析分野 土屋浩一郎	
ストレス緩和ケア看護学分野 雄西智恵美	
医用放射線技術科学分野 上野 淳二	
代謝栄養学分野 中屋 豊	
がん診療連携センター 古本 博孝	
●臨床栄養学の専門職業人養成のための社会人大学院	
栄養生命科学教育部 中屋 豊	
●魅力ある大学院教育イニシアティブについて	
口腔科学教育部長 永田 俊彦	
●質の高い医療人養成推進プログラム	
事業推進代表者 土屋浩一郎	
新分野紹介	p. 8
医療情報学分野	
臨床薬理学分野	
総合診療歯科学分野	
●医療教育開発センターニュース	p. 9
●研究部ホットニュース	p. 12
●市民公開講座の開催報告	p. 13
●新任教授ご挨拶	p. 14
退職・転出教授一覧	p. 14
学会情報	p. 14
学会賞等受賞	p. 14
編集後記	p. 15



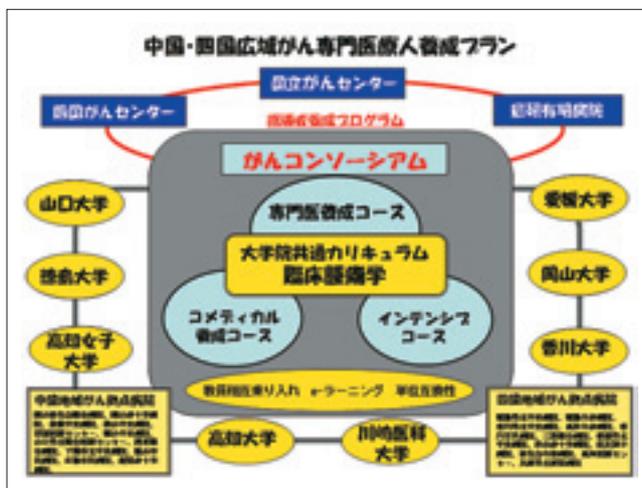
## ◆◆◆中国・四国広域がんプロ養成プログラム◆◆◆

### 「がんプロフェッショナル養成プラン」とは

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等（コメディカル）の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。

そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のための8コースを整備したものです。以下にコースの紹介をします。



	愛媛大	岡山大	香川大	川崎大	高知女子大	高知大	徳島大	山口大
がん専門医療人養成コース								
・がん薬物療法専門医コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・放射線治療医コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・緩和療法医コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・腫瘍外科コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・がん専門薬剤師コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・がん専門看護師コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・医学物理士コース	●	●	●	●	●	●	●	●
・がん専門栄養士コース	●	●	●	●	●	●	●	●

●：カリキュラム作成幹事校

### ■「がん薬物療法専門医コース」について

呼吸器・膠原病内科 講師 埴淵 昌毅

がん薬物療法専門医コースは大学院、大学病院および連携病院においてがん薬物療法に関する専門的な研修項目を履修し、日本臨床腫瘍学会が定めるがん薬物療法専門医資格の取得を目指すプログラムです。

がん薬物療法専門医コースでは、大学病院がん診療連携センターでの演習(Cancer Board, 外来化学療法等)や他職種との協働を通じたチーム医療研修を行います。更に研究方法論を学び、自ら臨床研究やトランスレーショナルリサーチを行って、その成果により学位を取得します。このようにして次代のがん臨床研究と診療を担う臨床腫瘍医を養成します。

### ■「放射線治療コース」について

放射線科学分野 教授 西谷 弘

当分野では、癌診療において有効な放射線療法の確立や新たな放射線照射技術、精度保障・管理技術の開発を目指し、5名の放射線治療専門医を中心に診療、教育、研究に励んでいる。近年は装置のハイテク化による照射技術の進

歩や先進の画像を利用したImage-guided radiation therapyを使い、より高精度な放射線治療を可能としている。これらを使い種々の画像情報を利用した治療計画法の検討・開発、腫瘍の機能情報のpredictive valueに関する研究や非侵襲的頭頸部固定具とマイクロマルチリーフコリメータ及びCT同室設置型の直線加速装置を使用した頭蓋内小病変、肺腫瘍に対する定位放射線照射法の確立に関する研究に力を注いでいる。また現在、多施設共同臨床試験として上咽頭癌に対する化学放射線療法、子宮頸癌に対する温熱療法併用放射線療法、表在食道癌に対する密封小線源治療併用の放射線療法も行っている。

### ■「緩和医療専門医コース」について

医療教育開発センター 准教授 寺嶋 吉保

2007年施行された「がん対策基本法」や「がん対策推進計画」などの重点項目として緩和ケアの充実があり、がんプロでも8大学中、香川大学を主管として岡山大学、徳島大学の3大学で開設されます。

他のコースと共通の講義と演習と緩和ケア専門の講義と実習と研究をもって30単位を取得します。講義は各大学の緩和ケア担当者が分担して年数回の集中講義を3大学で開講し、参加できなかった受講生も講義録画したE-learning

の視聴で単位を取ることができます。実習は、各大学病院の緩和ケアチームや関連のホスピス等の診療に参加します。がん拠点病院などの査察で緩和ケアチームの実体が求められ、このコース修了した医師の需要が増えると思われる。

## ■「腫瘍外科系専門医養成コース」について

消化器・移植外科学分野 講師 栗田 信浩

がんの手術ができる外科医は全国的に減少しており、基幹学会である外科学会への新規入会者が近い将来ゼロになることが予想され、若手医師の育成と魅力ある研修体制の確立は急務である。

腫瘍外科医コースでは共通コア科目で腫瘍学の基本を修得し、腫瘍別選択科目及び研究科目を履修して論文を作成して学位を取得することが可能である。さらに日本外科学会など各種専門学会の専門医に必要な条件をクリアすることができる。

本プログラムに則って、2008年1月から2人の外科医師が癌研有明病院に指導者養成プログラムの一環として研修予定であり、今後も積極的に、手術のみならず化学療法、Cancer boardなどを含め広く腫瘍学に造詣の深い医師の養成を進めていく。

## ■「がん専門薬剤師養成コース」について

医薬品機能解析学分野 教授 土屋浩一郎

「がん専門薬剤師養成コース」は徳島大学の他、岡山大学、高知大学の計3校が参加しており、徳島大学は当コース幹事校として活動しています。

この取り組みでは、3大学内に修士・博士課程を設置し、そこで講義形式によるがん治療全般に関する基礎・専門知識の習得と、演習形式による抗がん剤の取り扱い・薬学的がん管理とがんチーム医療における薬剤師の役割を学び、さらにはがん関連の研究と発表（学会発表と論文発表）をサポートすることを目指し、現在、平成20年4月からの学生受け入れに向けて準備を進めています。将来、中国・四国地方から1人でも多くのがん専門薬剤師がこのコースから生まれるよう、諸先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ■「がん専門看護師コース」について

ストレス緩和ケア看護学分野 教授 雄西智恵美

がん看護のプロフェッショナルの育成は、「がん看護専門看護師」という名称で10年前から始まっています。しかし、がん看護専門看護師の教育課程として認可された大学院は現在のところ11校で、資格を得たがん看護専門看護師はわずか104名であり、兎に角、多くの人材を育成すること

が急務となっています。既に教育課程が認可されている高知女子大学と今年認可予定の岡山大学と連携し、教育基盤の整備・充実を図ると共に、がん医療チームの一員として複雑で解決困難な看護問題をもつがん患者やその家族に対して水準の高い看護実践を提供できる人材、また教育的役割や研究が実践できる人材の育成に取り組みます。

## ■「医学物理士養成コース」について

医用放射線技術科学分野 教授 上野 淳二

がん診療において放射線医学の果たす役割は大きく、画像診断、IVRおよび放射線治療がその要素である。医学物理士には放射線診断、核医学、放射線治療等の分野があるが、近年の放射線治療技術進歩により、放射線治療分野の医学物理士育成が急務となっている。この度、保健科学教育部修士課程に医学物理士養成コースを設け、主に放射線治療分野の医学物理士育成とその資質向上を目指した教育プログラムを提供する。医師や診療放射線技師とは別の職業資格である医学物理士を養成し、将来、医学物理士が診療システムの中に広く取り入れられ、この職種による各種精度管理などが、各種疾患の治療成績向上に結びつくことを期待するものである。

## ■「がん専門栄養士コース」について

代謝栄養学分野 教授 中屋 豊

がんプロの計画が開始され、専門家を育成することになった。他のプロジェクトでは、医師、看護師、薬剤師、放射線技師などの専門家養成コースが設けられているが、残念ながら栄養士に関しては、中四国の我々のプロジェクトの1つだけであった。他のコースは1つのプロジェクト内で少なくとも数大学が関与しているが、栄養だけは徳島大学単独であった。すなわち、全国でただ1校のみの計画となった。栄養が、がん治療に重要であることは、明白であるが、専門家の認定システムも無いのが現状である。しかしながら、大学院での教育システムは、かなりの部分ができあがり、他の分野よりも進んでいると自負している。コンソーシアム内で研究会を作り、第1回の研究会が1月26日に岡山で開かれた。少ないスタッフであるが、癌治療における栄養管理の専門家を育てる立派なシステムに仕上げたいとがんばっています。

## ■ Faculty Development (FD)

がん診療連携センター 准教授 古本 博孝

Faculty Development (FD) とは個々の教員の教育に対する意識と技量を高め、教育能力の一層の開発を目指すことです。FDワーキンググループでもがんプロフェッショナルを養成する指導者を養成するために以下の活動を行っ

ています。

- 1) コンソーシアムでのFDを企画運営する。
- 2) 各大学でのFDの情報をまとめ、参加を促す。
- 3) コンソーシアムからの海外派遣を通じたFDの企画を行なう。

4) 国内施設派遣でのFDの企画を行なう。

- 5) 海外派遣、国内派遣者の成果をコンソーシアム内に還元するため派遣者を講師とした講演会、セミナーなどを企画する。

## ◆◆◆ 臨床栄養学の専門職業人養成のための社会人大学院 ◆◆◆

栄養生命科学教育部 中 屋 豊

栄養学の分野においても学問の進歩が速く、新しい知識の元に治療を行う必要があります。しかしながら、従来の栄養学は臨床医学に関する講義は少なく、十分なものではありませんでした。例えばNSTを開始したとき「DIC」と言うと、看護師さんは全員どういう病態かを知っていましたが、管理栄養士の人たちは誰も名前さえも聞いたことがないという反応でした。病気のことでなく、血液検査もほとんど解釈をしていなかったし、病気、治療についても、詳しいことを知っているのは糖尿病とか高脂血症などの食事指導している疾患だけでした。

近年、nutritional support team (NST)が注目され、栄養士も入院患者の栄養管理をチーム医療として行う機会が増えてきました。しかしながら、従来は病棟に赴くことなく、調理が中心であったため、臨床患者の病態、治療などについてはほとんど経験がなく、また知識も得る機会がなかったというのが現実だと思えます。臨床栄養学の知識を習得し、良好な栄養管理を行うことができます。これからは、栄養士の活躍する場はたくさんあるはずです。

我々の以前の調査によると、徳島大学大学院においてさらに深く臨床栄養の研究を行いたいと希望するものが多数いることが示されました。特に、徳島の地にいなくても社会人大学院生として入学し、学べる環境を作って欲しいとの希望が強かったようです。これらの希望に添うため、全国どこの地からでも大学院教育を受けることができるシステムを構築する必要があると考えました。

教育に関する文部科学省への申請書類を作る際にアメリカの栄養関係の大学院の教育制度を調べてみました。修士に関してはほとんどが専門職業人養成のための大学院であることに気が付きました。アメリカには、私どものところのような研究が中心の大学院は、少なくとも栄養関係の修士では見つかりませんでした。アメリカの大学院の修士課程では、教育内容も非常に多岐にわたっており、基礎医学、基礎栄養学から臨床医学、臨床栄養管理など豊富でした。

アメリカの臨床栄養士(registered dietician)は非常に高額の給料をもらって病院で、食事、経腸栄養剤、点滴の処方はもちろんのこと、それに必要な臨床検査などもオーダーでき、また、一部は全身管理も行うようになっています。このために、高度な技術と知識を学んでいるのだなと実感しました。

日本でも専門職業人養成の大学院というかけ声はありますが、あまり気にとめていないというのが大学院の教員の実

態ではないかと思えます。というのは、教育で評価してもらおうのは非常に難しく、研究費もそれでは集まらないということで、どうしても研究に力を入れているのが現状ではないでしょうか。アメリカの状況などをみていると、少し反省の時期が来ているのかなと感じています。

本題に入りますが、この社会人大学院の制度においては、インターネットを利用した授業および研究指導を行うと共に、東京および大阪においても徳島大学の施設を利用し、集中講義(スクーリング)を行い、全国どこにいても単位が取得できることとなります。ただし、東京、大阪などでの講義は来年までは行う予定ですが、予算の都合もあり、2年後からは徳島のみでのスクーリングとなる予定です。

ここでは、臨床栄養学に関する、基礎から、臨床、実際の管理などを中心とした授業を行うこととなります。幅広く、深い知識および技術の習得が可能であり、ここで学ぶことによりチーム医療の一員として、医師などの他の医療スタッフと対等に討論しあえる実力をつけることが期待されます。

社会人大学院は前期課程、および博士後期課程の両方の学生を対象にしています。いずれにしても、社会人として

期	授業日	内容	教材	教科書	参考書
1	平成19年5月7日	1.代謝概論	Hypermetabolic state はぶさくに アミノ酸代謝とエネルギー代謝について 糖質1 脂質1	中屋 豊 中屋 豊	中屋 豊 中屋 豊
2	平成19年5月18日	2.糖尿病 脱水	2. エネルギー不足 2.1 栄養素の摂取と代謝 2.2 糖尿病	中屋 豊 中屋 豊	中屋 豊 中屋 豊
3	平成19年6月10日	3.糖尿病と腎臓病を合併した糖尿病腎症	3. 糖尿病1 3. 糖尿病2	中屋 豊 中屋 豊	中屋 豊 中屋 豊
4	平成19年6月18日	4.糖尿病1 糖質	糖質1-基礎代謝学	中屋 豊	中屋 豊

e- ランニングでの授業概要



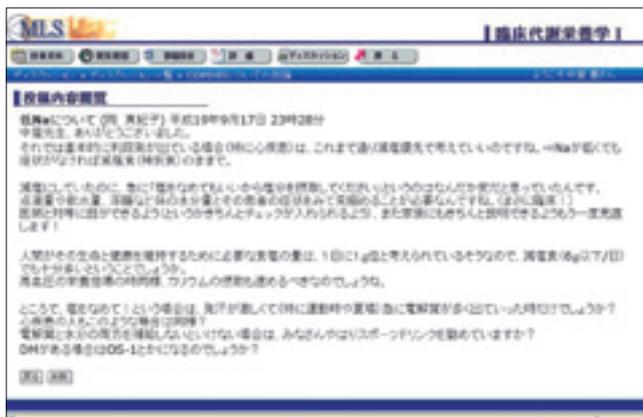
掲示板に問題点を出し合い、討論している画面

活躍されている栄養士の方が、臨床の現場で研究し、論文をまとめて学位が取れるように、制度を少しずつ改善していています。この大学院は今年から開始しましたが、幸い8人の学生が入学してくれ、現在受講しております。学生達は授業のレポートなどで大変そうですが、がんばって学んでいます。

平成20年度からは「がん専門栄養士(仮称)」を育成しようと考え、さらに12単位の授業を追加開講する予定です。これは、国からの「ガンプロフェッショナル」というプログラムにより行われるものですが、全国では徳島大学だけが栄養に関するプログラムを掲げています。

今、計画がどんどん拡張してはいますが、私の後を継いでくれる人を養成しなければいけないと考えています。研究費に関係ない仕事、大事ですが評価をしてくれない

仕事を、やってくれる人材が後を次いでくれることを期待して、筆をおきます。



掲示板に問題点を出し合い、討論している画面

## ◆◆◆ 魅力ある大学院教育イニシアティブについて ◆◆◆

口腔科学教育部では、平成18-19年度の文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業として「歯科専門医の指導者養成プログラム」が採択されました。このプログラムは、平成17年度の中央教育審議会答申にある「国際的に魅力ある大学院の構築」、「臨床に特化した博士コースの必要性」というキーワードや、平成18年度から必修化された歯科医師臨床研修制度（1年間）の実施を受けて、臨床系大学院の見直しを図るべく、当時の坂東永一歯学部長の英断によって計画された事業です。

本プログラムの基本方針は、1) 大学院臨床歯学コースの新設による教育課程の実質化、2) ヒトを対象とした歯科の臨床研究・臨床試験に関する教育研究の活性化、3) 国際レベルの高度な臨床歯学教育プログラムの導入、の3つが挙げられます。事業遂行に際しては、平成19年度に臨床模擬コースを設置し、インプラントコース、矯正歯科コース、歯周病コース、顎機能コース、口腔外科コースなどを立ち上げ、そこに既存の大学院生を配置しました。各コースでは、大学院生が専門的な臨床知識や臨床技術の修得が出来るよう、インプラント手術、歯周組織再生療法、顎関節症治療などの臨床症例に直接接してトレーニングを積んでおります。平成19年11月には、徳島大学の海外協定校である米国テキサス大学から2名の教員を徳島大学に招き、実習を中心としたインプラントセミナーが2日間開催されました。受講した大学院生は米国のインプラント治療の実際を身近に経験することができ意義ある研修となりました。図1に示しますように、本コースでは、臨床に専念しヒトを対象とした臨床研究を行い、それを国際的レベルの論文に仕上げるのが学位授与の原則となります。

国際的に通用できる臨床技術、研究内容、教育コースを確立することは本イニシアティブの大きな目標であり、大学院生を国際舞台に送り込み、彼らの研究モチベーションを上げることによって研究の活性化を図ることも教員の責

### 口腔科学教育部長 永田俊彦

務です。このような目標を達成させる活動の一つとして、本イニシアティブ事業では国際シンポジウムを2回企画し、第1回目は平成19年3月に淡路島夢舞台国際会議場にて、第2回目は平成19年12月に徳島大学長井記念ホールにてそれぞれ開催しました。いずれにおいても国内外の著名

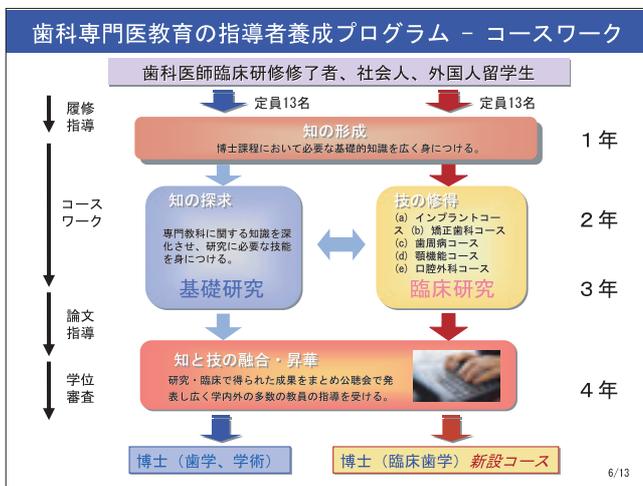


図1



図2

な研究者による講演および討論、大学院生による口演発表とポスター発表、大学院教育に関するFDワークショップあるいはFD講演が行われました。図2は第2回シンポジウムの際の集合写真です。大学院生だけでなく学部学生も多く参加し、実りあるシンポジウムとなりました。

このほか日常的にも内外の研究者を招いてのセミナー開催、学内学会（四国歯学会）での臨床専門医による症例発

表、大学院生の国際学会発表の補助、臨床歯学コース関連するTAやRA業務の指示などを推進することによって、臨床歯学コース設置に向けた種々の活動を展開しています。本事業を通じて、口腔科学教育部が魅力ある大学院としてさらに発展できればと願っています。今後、正式なコースにするため、平成21年度歯学部概算要求項目として「臨床歯学コースの設置」を申請することにしております。

## ◆◆◆ 質の高い医療人養成推進プログラム ◆◆◆

### 薬学・医学・病院の連携による臨床薬剤師・医療薬学研究者育成システム構築事業 ●●●●●●●●●●

事業推進代表者 土 屋 浩一郎

徳島大学薬学部では、平成19年度より特別教育研究経費によるプログラムとして、「薬学・医学・病院の連携による臨床薬剤師・医療薬学研究者育成システム構築事業」に採択されましたので、以下に概略を紹介させていただきます。

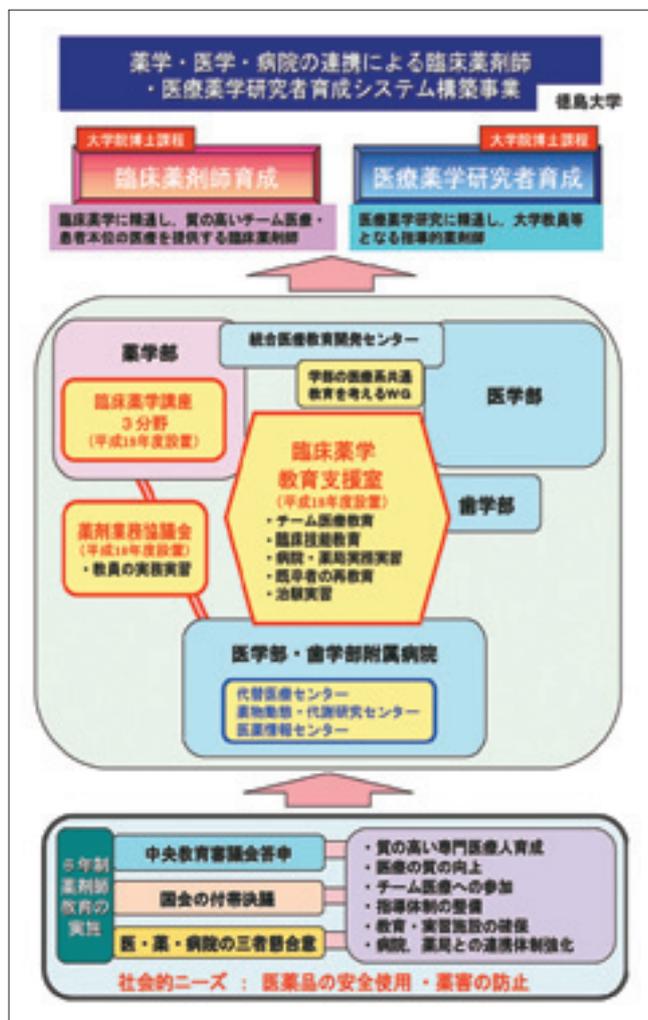
近年の医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴う医薬品の安全使用や薬害の防止などの社会的要請に応えるため、教養教育や医療薬学を中心とした専門教育及び実務実習の充実が必要とされ、薬剤師6年制教育が開始されました。本事業はこれら社会情勢の変化に対応するべく、薬学部と医学部、附属病院が双方向に連携した臨床薬学教育の確立など、臨床現場に直結した新しい薬学教育システムを構築することを目的とし、患者本位の医療やチーム医療、高度医療に貢献する医療人としての薬剤師(臨床薬剤師)の養成並びに育薬・臨床開発(治験等)を推進し創薬に貢献できる医療薬学研究者の養成を進めます。

具体的には図に示すように、①薬学部・医学部・医療教育開発センターの教員と附属病院の教員及び薬剤部薬剤師、専任教員から構成される「臨床薬学教育支援室」を設置し、学生の医療技能教育や実務実習の実施を支援する、②学部の共通教育を考えるワーキンググループにおける医薬双方向性教育の実施、③附属病院に設置された「補完代替療法室・おくすり相談室」への薬学部教員の参加および設置予定の「薬物動態・代謝研究センター」及び「医薬情報センター」への参画による教員の教育能力の向上、④既卒者の再教育システムの整備を行い、その結果として薬学部と医学部、附属病院が双方向に連携し臨床分野の薬剤師および研究者を育成するプログラムです。

本取り組みを実行することにより、教育的には医歯薬の垣根を越えた境界領域教育が充実して臨床薬学の新たな学問分野が発展するとともに、社会的要請の高い既卒者の専門薬剤師教育や治験関連教育等の教育システムを提案できます。また研究の面からは、臨床と薬学基礎講座・生命薬学講座・創薬関連講座の結びつきを深めることで、トランスレーショナルリサーチが進展するとともに病態を理解した指導的薬学研究者の養成が可能となります。

初年度となる平成19年度は、本取り組みに向けた教育研

究体制の整備(特任助教および専属の事務職員の配置)、教育環境の基盤整備として必要な機器(フィジカルアセスメ



ントモデル等)の購入、海外の医療薬学教育研究者による講演会、ホームページ (<http://www.ph.tokushima-u.ac.jp/?&rf=856>) の開設を行ってまいりました。平成20年度以降は臨床薬学教育支援室のメンバーとともに計画した事業内容を着実に進めてまいります。本取り組みが実りあるものになるよう、先生方のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

# 新分野紹介

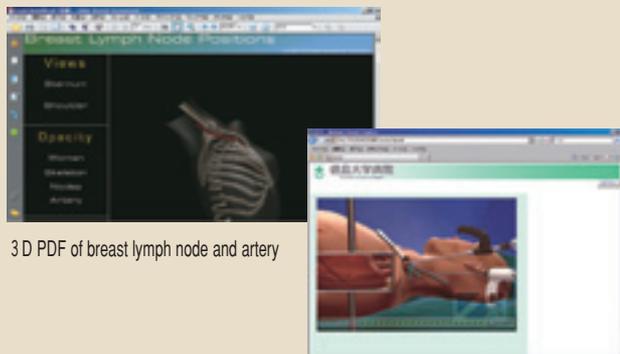
## 医療情報学分野

教授 森口 博基

医療情報部はH12年に創設され、ITを使って「新しい医療の枠組みをつくる」ことをメインテーマとしている臨床研究部です。産学官連携による医療情報システムに関連する数多くの実用的な研究開発（H19年度大学内共同研究数第1位）から病院マネジメントまで幅広くかかわっており、診療の効率化や患者サービスの向上などの病院経営に対するIT基盤を充実させています。そして、医学部や看護部などとともにeラーニング（インターネットを使った遠隔授業）による学生や医療関係者の先進的な教育システムの開発と運用を行っています。その実践的活動とITの使い方はユニークであり、医療情報分野の新しい方向性を示すものとして全国的に注目され、国内大学病院、海外からの視察が続いています。さらに、

H20/4 から、博士課程が設置される予定であり、医療関連企業にも期待されています。「ITは医療に役立つか？」われわれは今後もその解答を出していきます。

図1 医療・医学教育用3D CGコンテンツー病態制御外科学、ABP社(Sidney)、NECとの共同研究による



3D PDF of breast lymph node and artery

Streaming content of EK Ope.

## 臨床薬剤学分野

教授 水口 和生・准教授 川添 和義

臨床薬剤学講座では、チーム医療の一翼を担う薬剤師にとって重要な医療現場における実務実習のサポートと、学部学生に対する臨床薬学教育および臨床薬学に関する研究を行っています。また、大学院生に対しては特になん治療における薬物療法に力点を置いた教育を実施しています。実務実習では病院薬剤部における実習を中心に、集学治療病棟やNSTにおけるチーム医療などを含めて幅広く学習し、薬剤師として臨床現場に立ったときに実力が十分に発揮できるような教育を行っています。また、臨床薬学に直結する問題点を中心としたテーマを取り上げて研究を行っており、具体的には、1) 漢方薬のエビデンス、2) 抗血小板薬が他の薬剤により受ける影響、3) 神経細胞の生理応答に関する研究、4) アディ

ポサイトカインに関する研究、5) 樹状細胞の免疫応答などを他の講座と共同で研究しています。現在、ICUにおける薬物投与コントロールの研究なども行っており、今後、薬剤師にとって重要となる分野を中心にさらに研究課題を広げていきたいと考えています。



## 総合診療歯科学分野

教授 河野 文昭

歯科医学は、歯周病などの疾病の予防と治療、咀嚼、発音などの機能回復を目的とした治療からなります。総合診療歯科学では、治療分野の研究として、歯周炎発症初期の病態を明らかにするために、カドヘリン・カテニン等の細胞接着分子と細菌成分との関連について、培養細胞と歯周治療時に採取した炎症歯肉を用いて組織化学的に検索しています。一方、機能回復分野の研究として、全部床義歯に与える咬合様式を咀嚼機能や義歯の安定の面から再検討しています。また、歯科インプラントの研究では、口腔内に埋入されたインプラントを対象として、即時荷重を加えたインプラントの動態を共鳴振動周波数測定装置を用いた評価法をインプラントの成否の評価法として確立することを目指しています。このよう

に総合歯科診療分野では、歯科臨床に直結した問題に取り組むことで、患者のQOLを維持・向上するために貢献したいと思っています。





新たに「Tokushima Bioscience・COE Retreat」と名前を変えました。関係者の皆様にお礼を申し上げます。

リトリートは学会や研究会ではなく、リゾート気分を満喫しながら、自分の行ってきた研究を気楽に発表し、自由に意見を交換する場です。幸いに、会場になったホテルオリビアン小豆島には色々な設備が整っていました。参加者は十分に用意した自分の研究を発表し、他の発表者の講演を聞いて、大変活発な討論をしました。さらに出席者は、テニス、ゴルフ、オリエンテーリング、バーベキュー等を十分に楽しみ、リゾート気分を満喫しました。ホテルから提供されたシャンパンを飲みながら、出席者全員で沈み行く夕日を見ることができたのは忘れられない思い出になったと思います。リトリートは違う教育部の院生や教員とざっくばらんに話をし、新しく友達を作る絶好の機会でもあります。また、自分の研究のヒントや将来の研究の展望を見つける絶好な場でもあります。今回は全ての教育部からの出席者がおり、その目的は叶えられたと確信しました。なお、今回もHBS 研究部長の配慮により、ベスト・プレゼンテーションアワードを設けました。受賞した3名の院生はその成果を海外開催される国際学会で発表する予定になっています。



研究発表会▶



◀オリエンテーション



### Tokushima Bioscience・COE Retreatに参加して

医科学教育部 生体防御医学分野修士課程2年

近藤 嘉紀

今年初めて、小豆島で開かれた“Tokushima Bioscience・COE Retreat”に参加させて頂きました。Retreatは医学、歯学、薬学、栄養学、保健学と多くの研究分野の学生、先生方が参加され、活気のある研究発表会であり、自分の力を試す絶好の場であると感じました。

私は、生体防御医学分野にて安友教授のご指導の下、免疫機能の中心的な役割を果たしているTリンパ球の分化制御について研究を行っています。Retreatではシグナル調節因子であるSpredのTリンパ球分化での機能について発表を致しました。発表するうえで、スライド作りには大変苦悩しました。特にイントロの構成においては、どの様にすれば異分野の方々に伝えることができるかと頭を絞りました。その点で、Retreatでの発表準備は自分への理解にも繋がり、良い機会であると思います。また、発表の場では、異なる角度からのご意見、ご指摘を頂き、研究について再度一から考える機会となり、大変有意義なものとなりました。一方で、様々な分野の方々の発表もHBSを象徴するかのように多彩であり、活発に議論が行われ、私も盛んに質問をさせて頂き、自身の知見を広めることができたと感じました。

研究発表会だけでなく、オリエンテーリング、バーベキュー、懇親会などのレクリエーションを通じ、参加者の方々と交流することができたこと、また、まだ暑い中での小豆島での開催とあって、リゾート気分も楽しめ、非日常的な生活を楽しめたことを嬉しく思っています。そして、普段は接することが困難な先生方と将来の研究者としての

方向性、大学院の在り方など多くの事を語ることができ、大変刺激を受けることができました。

三日間と短い間でしたが、得るものは大きく、参加できたことを嬉しく思っています。また、国際学会での発表という、更に自分の力を試す場を与えて頂いたことに、心から御礼申し上げます。来年も開催されるようですが、RetreatがHBSを代表する行事となり、より実りあるものに発展していくことを期待しています。

### Tokushima Bioscience・COE Retreat 若手研究者奨励賞を受賞して

医科学教育部 分子制御内科学分野 博士課程3年

荻野 広和

この度はこのような賞を与えて頂き、本当にありがとうございます。当初は全く見ず知らずの方々と、いわゆる合宿形式でお互いの研究内容について討論するという事に多少の不安を覚えての参加でしたが、とても有意義な3日間を過ごす事が出来ました。若い世代同士という事もあり、発表も質問も臆することなくする事が出来ましたし、また懇親会などの場を通して新たな知り合いを作り、自分の知らない世界の研究に触れられた事など充実した時間であったと思います。この様に学部・学科の壁を越え交流を深める、またとない機会としてのRetreatが継続されるよう願うとともに、今後OBとして何らかの形でお役に立てればと思います。

今回この奨励賞を頂いたという事で、先日米国サンフランシスコにて開催されましたMolecular Targets and Cancer Therapeuticsという学会に参加させて頂きました。これはアメリカとヨーロッパの癌学会が合同で開催する学会で、癌の分子標的治療に関する内容をメインとしていま

す。現在、前臨床研究や臨床試験が行われ将来有望と考えられる新規薬剤の発表も多々見受けられ、自分が医師として世に出る頃には日常的に臨床の現場で用いられているかもしれないと思いながら、発表を聞き回っていました。自分もポスター発表をさせて頂き、外国の方々と英語でディスカッションするという窮地に追い込まれながらも、何とか乗り切る事が出来ました。

また私事ではありますが、3年前よりM.D.-Ph.D.コースに進学し、研究活動に従事してきました。来年度より医学部に復学し、医師国家試験合格を目指す事になりますが、将来的には、いわゆる基礎と臨床との橋渡し研究に携わっていきたくて考えております。そのためにも、これまでに得た様々な経験や人間関係を活かし、より一層努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、お忙しい中Retreat開催にご尽力頂きました羽地先生他たくさんの先生方、事務の辻さん、参加者のみなさん、そして参加する機会を与えて下さいました曾根先生に心より感謝申し上げます。

### Tokushima Bioscience COE Retreat 2007: my impressions.

□腔科学教育部 □腔組織学分野 博士課程3年  
Bruna Rabelo Amorim

I was honored to be awarded at the Tokushima Bioscience COE Retreat 2007, a great initiative that our University promotes every year. The Tokushima Bioscience COE Retreat is a very good opportunity not only for improve our knowledge, but also to know about what kind of projects are being developed in our University. This was my second participation in this event, and I was really surprised to be awarded between so many interesting researches. The Tokushima Bioscience COE Retreat has a great value once it promotes the interaction between all the courses of the Institute of Health Bioscience and consequently a rich scientific discussion. It is also a wonderful opportunity to make new friends. The participants had the chance to visit the beautiful city of Shodoshima, where I could see one of the most beautiful sunsets in my life. Now, after almost 3 years doing research in Japan, soon I will reach my final goal to get the PhD degree in Oral Science. The award I received at the Tokushima Bioscience COE Retreat gave me a great opportunity to present my research in an International meeting, which will certainly contribute to the development of my project. I would like to thank to Japanese government for Mombukagakusho scholarship, my professor Tatsuji Haneji and my supervisors Hirohiko Okamura and Kaya Yoshida for all the support on the development of my project. I hope I will be able to participate again next year in the Tokushima Bioscience Retreat 2008.

### Tokushima Bioscience・COE Retreat 特別賞を受賞して

栄養生命科学教育部 分子栄養学分野 博士前期課程2年

上 畑 陽 子

今回、Tokushima Bioscience・COE Retreatに参加させて頂き、大変有意義な3日間を過ごすことができました。大学院生から先生方に至るまで、様々な分野に精通した方々と言葉を交すことができたことは、とてもよい刺激となりました。徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部は医学・歯学・薬学・栄養学から医学・医療を総合的に見ることでできる、大変魅力的な大学です。今回のRetreatでは、この大学のよさが一学生にまで確実に伝わったと思います。研究内容に関しては言うまでもなく、多岐にわたるご専門の方々よりご質問・ご指摘を頂き、新たな視点に気付くことができました。さらに、歯学や薬学など、全く未知の分野の研究の窓を垣間見、自分たちの前に広がる学術分野の無限の広さ、そして深さを実感し、好奇心をかき立てられました。

さらに、研究発表においては、特別賞を受賞させて頂き、大変光栄に思います。共に参加した学生の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。私は徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子栄養学分野の宮本賢一教授、伊藤美紀子助教のご指導の下で、生体内リン代謝調節機構の解明を目指し、日々研究に励んでいます。宮本教授に出会っていなかったら、徳島大学大学院にて研究することはなかったと言っても過言ではありません。自分の信じた道で自分の行った研究について、同じ目線の高さをもった学生の皆様からご評価頂いたことは、自分の興味のある分野に人を惹きつけ、共に切磋琢磨する仲間を得る上で、この上なく嬉しいことでした。

今後も、自分の信じたことを決して裏切らず、考えることの自由を噛みしめながら、自分らしく栄養学を追求していきたいと思っております。その中で、今回の特別賞のように、共に興味を分かち合える仲間が得られれば、最高です。

最後になりましたが、宮本賢一教授、伊藤美紀子助教、そして、Retreatに際してお世話になりました先生方、学生の皆様に、心から感謝申し上げます。



寺嶋副センター長・羽地教授・曾根研究部長・安井センター長  
近藤さん・荻野さん・ブルーナさん





## ●新任教授ご挨拶



### 地域医療学分野 谷 憲治

平成19年10月1日付にて徳島県の委託事業による受託講座として開講した地域医療学分野に教授として就任いたしました谷憲治です。徳島県は住民あたりの医師数は全国上位にランクされていますが、医師の地域偏在による地方の医師不足が極めて深刻な状態となっております。本分野はそういった県内の地域医療問題を研究課題として取り組み大学人として地域医療レベルの向上に取り組んでまいります。また、徳島大学においては学部学生から研修医に至るまで一貫した地域医療に関する教育研修システムを構築することで、将来地域医療に貢献できる情熱と能力をもつ医師を育成していくつもりです。昭和57年に本学医学科を卒業後、諸先生方にご指導をいただきながら内科医として臨床、教育、研究に取り組んできた経験を生かし、今後は徳島県の地域医療環境の改善に向けて全力で取り組んでいくつもりですので、ヘルスバイオサイエンス研究部の皆様のご協力ご支援よろしくお願いいたします。



### 消化器内科学分野 高山 哲治

平成19年12月1日付で、伊東進 前教授の後任として、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 臓器病態治療医学分野（消化器内科学分野）を担当させて頂くことになりました。私は北海道生まれの北海道育ちですので、徳島県で雪の無い冬を初めて経験し、暖かさに驚いております。私の専門は、消化器癌の内視鏡診断、治療および癌の化学療法です。研究では、拡大内視鏡を用いた大腸の微小病変aberrant crypt foci(ACF)の観察、それを標的とした癌予防の研究を行っています。また、癌に発現するGlutathione S-transferase- $\pi$ (GST- $\pi$ )などの諸分子に注目し、これらを標的とした分子標的治療薬の開発を目指しています。私は、内視鏡センター長も併任し、消化器癌の診断・治療、これらに関わる研究の領域で微力ながら全力を尽くす所存ですので、これからもご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 退職・転出教授一覧

- 医学系 太田 房雄 (予防環境栄養学) H19. 9. 30退職 (瀬戸検診クリニック副所長)
- 久保 真一 (法医学分野) H20. 4. 1 転出 (福岡大学医学部教授)
- 歯学系 中條 信義 (口腔侵襲制御学分野) H20. 3. 31定年退職
- 長山 勝 (口腔顎顔面外科学分野) H20. 3. 31定年退職
- 坂東 永一 (咬合管理学分野) H20. 3. 31定年退職
- 薬学系 楠見 武徳 (海洋資源薬学分野) H20. 3. 31定年退職

## 学会情報

- 第50回日本脂質生化学会 実行委員長 徳村 彰
  - 日時：平成20年6月5日(木)、平成20年6月6日(金)
  - 場所：徳島県郷土文化会館(1Fホール、5F小ホール、4F会議室)
  - 問合先：衛生薬学分野
  - TEL：088-633-7248 FAX：088-633-9572
- 第89回日本消化器病学会四国支部例会 会長 島田光生
  - 日時：平成20年6月14日(土)、平成20年6月15日(日)
  - 場所：徳島県郷土文化会館
  - 問合先：消化器・移植外科学分野
  - TEL：088-633-7137 FAX：088-633-9698
- 第100回日本消化器内視鏡学会四国地方会 会長 本田浩仁
  - 日時：平成20年6月14日(土)、平成20年6月15日(日)
  - 場所：徳島県郷土文化会館
  - 問合先：消化器内科学分野
  - TEL：088-633-7124 FAX：088-633-9235
- 第48回日本呼吸器学会学術講演会 会長 曾根三郎
  - 日時：平成20年6月15日(日)～17日(火)
  - 場所：神戸コンベンションセンター(神戸国際会議場・展示場・ポートピアホテル)
  - 問合先：呼吸器・膠原病内科学分野
  - TEL：088-633-7127 FAX：088-633-2134
- Bacteria Adherence & Biofilm第22回学術集會 会長 三宅洋一郎
  - 日時：平成20年7月4日(金)、5日(土)
  - 場所：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
  - 問合先：口腔微生物学分野
  - TEL：088-633-7329 FAX：088-633-7390
- 第18回遺伝医学セミナー 委員長 中堀 豊
  - 日時：平成20年9月5日(金)～9月7日(日)
  - 場所：ホテル阪急エキスポパーク(大阪府吹田市)
  - 問合先：人類遺伝学分野
  - TEL：088-633-7075 FAX：088-633-7453

## 学会賞等受賞

### ■日本小児神経学会優秀論文賞



東田 好広 小児医学分野：大学院生  
 受賞年月日：平成19年7月6日  
 受賞論文：Toda Y, Mori K, Hashimoto T, Miyazaki M, Nozaki S, Watanabe Y, Kuroda Y, Kagami S. Administration of secretin for autism alters dopamine metabolism in the central nervous system

### ■日本唾液腺学会奨励賞



張 剛太 歯科麻酔科学分野：大学院生  
 受賞年月日：平成19年12月8日  
 演題名：耳下腺腺房細胞における水チャネル・AQP5と脂質・ラフトの刺激による細胞内移動と唾液への遊離

### ■平成19年度ヨウ素学会賞



落合 正仁 精密薬品製造学分野：教授  
 受賞年月日：平成19年11月16日  
 受賞論文：超原子価ヨウ素化合物の合成と反応に関する研究

### ■日本消化器病学会第88回四国支部例会学術奨励賞



### ■平成19年度日本病理学会学術研究賞



石丸 直澄 口腔分子病態学分野：准教授  
 受賞年月日：平成19年12月6日  
 受賞論文：自己免疫疾患におけるNF- $\kappa$ Bシグナルを介したT細胞の制御機構

### 宮谷 知彦

消化器・移植外科学分野：大学院生  
 受賞年月日：平成19年12月15日

### 金本 真美

消化器・移植外科学分野：大学院生  
 受賞年月日：平成19年12月15日

徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。(平成19年3月28日)

- ・認証評価機関  
独立行政法人 大学評価・学位授与機構
- ・認証期間  
7年間(平成19年4月1日～平成26年3月31日)



研究部組織の改組により、平成20年4月1日より以下のとおりとなりました。

### 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部組織

■：分野名変更, ■：新設

部 門	講 座	分 野	変 更 前
医療創生科学部門	先端医療創生科学講座	呼吸器・膠原病内科学	医学系 分子制御内科学
		腫瘍内科学寄附講座	医学系
		泌尿器科学	医学系
		生体防御医学	医学系
	分子口腔医学講座	口腔分子病態学	歯学系
		口腔疾患制御外科学	歯学系 口腔腫瘍制御学
	臨床薬学講座	臨床薬物動態学	薬学系
		医薬品情報学	薬学系
		医薬品機能解析学	薬学系
	食品栄養設計学講座	臨床薬剤学	医学系 薬 剤 部
食品機能学		医学系	
社会環境衛生学講座	予防医学	医学系	
	小児歯科学	歯学系 小児口腔健康科学	
	衛生薬学	薬学系	
	実践栄養学	医学系 国際公衆栄養学	
	地域医療学受託講座	医学系	
発達予防歯科学部門	医療情報学講座	医療情報学	医療情報部
	発生発達医学講座	機能解剖学	医学系
		小児医学	医学系
	健康長寿歯科学講座	産科婦人科学	医学系 女性医学
		分子医化学	歯学系
		口腔微生物学	歯学系 口腔感染症学
	病態予防医学講座	歯科保存学	歯学系
		総合診療歯科学	歯学系 総合歯科診療部
		生理機能学	医学系 分子細胞生理学
	神経情報医学部門	情報統合医学講座	消化器内科学
顕微解剖学			医学系 形態情報医学
統合生理学			医学系
病態情報医学講座		精神医学	医学系
		脳神経外科学	医学系
		薬理学	医学系 情報伝達薬理学
感覚情報医学講座		麻酔・疼痛治療医学	医学系 侵襲病態制御医学
		腎臓内科学	医学系 病態情報診断学
		救急集中治療医学	医学系
		眼科学	医学系 視覚病態学
再生修復歯科学部門	顎口腔病態制御学講座	臨床神経科学	医学系 神経情報医学
		歯周歯内治療学	歯学系
		歯科放射線学	歯学系 口腔顎顔面放射線医学
	顎口腔再建医学講座	歯科麻酔科学	歯学系 口腔侵襲制御学
		口腔顎顔面形態学	歯学系
		生体材料工学	歯学系
		口腔顎顔面補綴学	歯学系
		口腔顎顔面外科学	歯学系
		口腔顎顔面矯正学	歯学系
		器官病態修復医学講座	人体病理学

部 門	講 座	分 野	変 更 前	
再生修復歯科学部門	器官病態修復医学講座	消化器・移植外科学	医学系 臓器病態外科学	
		心臓血管外科学	医学系 循環機能制御外科学	
		循環器内科学	医学系	
	生体防御腫瘍医学講座	環境病理学	医学系	
		放射線科学	医学系 病態放射線医学	
		胸部・内分泌・腫瘍外科学	医学系 病態制御外科学	
	感覚運動系病態医学講座	法医学	医学系	
		皮膚科学	医学系	
		運動機能外科学	医学系	
		形成外科学	医学系	
分子細菌学		医学系		
プロテオミクス 医科学部門	生体制御医学講座	ウイルス病原学	医学系	
		人類遺伝学	医学系 分子予防医学	
		生体情報内科学	医学系	
	生体システム 栄養科学部門	摂食機能制御学講座	分子病態学	医学系
			ストレス制御医学	医学系
			口腔組織学	歯学系
		栄養医科学講座	口腔分子生理学	歯学系
			分子薬理学	歯学系
			予防歯学	歯学系
			咬合管理学	歯学系
分子栄養学			医学系	
生体栄養学			医学系	
予防環境栄養学			医学系	
医療栄養科学講座	臨床栄養学	医学系		
創薬資源科学部門	機能分子創製学講座	代謝栄養学	医学系	
		分子創薬化学	薬学系	
		機能分子合成薬学	薬学系	
	医薬資源科学講座	精密薬品製造学	薬学系	
		有機合成薬学	薬学系 天然分子構築薬学	
		海洋資源薬学	薬学系	
	生体情報薬科学部門	創薬生命科学	薬学系	
		資源分子探索学講座	生薬学	天然医薬品学
		分子薬物学	薬学系	
		薬物情報解析学講座	薬物治療解析学	薬学系
保健科学部門	分子情報薬学講座	薬物動態制御学	薬学系	
		病態神経薬学	薬学系	
		製剤設計薬学	薬学系	
	看護学講座	創薬理論化学	薬学系	
		製薬分析科学	薬学系	
		看護技術学	保健系	
		看護教育学	保健系	
		看護管理学	保健系	
		療養回復ケア看護学	保健系	
		ストレス緩和ケア看護学	保健系	
臨床腫瘍医療学		保健系		
子どもの保健看護学		保健系		
生殖補助医療学		保健系		
医用情報科学講座	女性の健康支援看護学	保健系		
	メンタルヘルス支援学	保健系		
	地域看護学	保健系		
	学校保健学	保健系		
	助産学	保健系		
	放射線理工学	保健系		
	医用電子情報システム学	保健系		
	医用画像情報科学	保健系		
	医用画像機器工学	保健系		
	医用放射線技術科学	保健系		
医用検査学講座	画像情報医学	保健系		
	放射線治療技術科学	保健系		
	生体機能解析学	保健系		
	微生物・遺伝子解析学	保健系		
	病理解析学	保健系		
	細胞・免疫解析学	保健系		
	口腔保健学講座	口腔保健基礎学	歯学系	
		口腔保健衛生学	歯学系	
		口腔保健教育学	歯学系	
		口腔保健支援学	歯学系	
口腔保健福祉学	口腔機能福祉学	歯学系		
	口腔保健福祉学	歯学系		

### 編集後記

今回は、各教育部のユニークな取り組みについて、特集。何れの取り組みも、曽根初代研究部長の並々ならぬご尽力による医歯薬業保を統合した大学院HBS研究部の構築によりはじめて可能になったといえます。本年度は、林新研究部長のもと、さらに発展されることが期待されます。

一方、蔵本キャンパスは、青野学長を始めとして施設マネジメント部のご尽力により、施設が一新されてきました。他方、構成員の多大な負担による立体駐車場の建設が進められていますが、依然として、車が溢れており、静粛で安全な“教育・研究の場”の整備が望まれます。(樋口富彦)

### HBS研究部だより 第8号

発行日: 平成20年4月1日

発行: 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

編集: 研究部広報委員会

広報委員: 福井義浩(委員長)、樋口富彦、大下修造、二川 健羽地達次、伊藤博夫、大高章、安井夏生、宮本敏克

<http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp>

問合せ先: 医学・歯学・薬学部等第一総務係: 樋谷 isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp



# 財団法人 厚仁会

徳島大学病院内には、様々なショップも充実しています。  
お気軽にご利用ください。



## 天吉

おいしい〜うどんを食べるなら天吉うどんで決まり!!  
天吉特製の山菜ぶっかけうどんも人気です。  
大好評の栗ぜんどんは、こしのある稲庭麵を使ったおやつ感覚のデザートです。うどん、そば以外にも、丼ぶりや定食もあります。  
お持ち帰りも出来ますので、お気軽にお越しください。

●営業 10:30~18:00 ●休日 [土・日・祝]  
●電話 (088)633-0795



## タリーズ 徳島大学病院店

タリーズは、スペシャルティコーヒーショップです。  
最高の豆を使い、最高の焙煎を施し、最高の抽出をしてタリーズの1杯が出来ます。  
最高の1杯をお客様に美味しく召し上がっていただく為、1杯1杯を丁寧にスタッフが心を込めてお作りしています。  
サンドイッチ、ケーキ等もごさいますので、お気軽にお寄りください。

●営業 7:30~18:30 ●休日 [土・日・祝] ●電話 (088)634-1533



## 食堂

ちょっと足を延ばして、東病棟2F 食堂へどうぞ。  
メニューも豊富、何よりも安くて美味しい!!  
体にやさしい食事を提供いたしています。  
日替定食、昼定食、中華そば、うどん、どんぶり、カレー、オムライス など、どれもお勧めです。ぜひ、お越しください。

●営業 8:00~18:00 (土・日・祝 10:00~15:00)  
●電話 (088)633-9392



## 喫茶店

食堂のすぐ横にある喫茶店。  
ドリンクだけでなく、デザートも充実しています。  
モーニングセット、ランチセットも大人気。  
ぜひ、お越しください。

●営業 8:30~16:30 ●休日 [土・日・祝]  
●電話 (088)633-9393

## Be Comfortable Restaurant

静かな気配の<sup>ステージ</sup>場所に憩う。  
シネマのような物語を誘う。  
おいしさの余韻につつまれる。

語らいから  
お食事まで  
新しい暮らしのコミュニティです

小宴会  
会議  
各種パーティー

徳島市蔵本町3丁目  
(徳島医学部構内青藍会館2F)  
Phone:088・633・0001

RESTAURANT  
**エルボ**

## 図書館 蔵本分館 ミーティングルーム(閲覧室)のご案内

図書館蔵本分館では、1F会議室をミーティングルーム(閲覧室)としてご利用いただけます。

開室時間 平日8:40~17:30(土日祝日は閉室)

※図書館が17:00閉館の日は17:00まで

※会議等に使用している場合や、2階閲覧席に余裕がある時期は、光熱費節減のため閉室しています。

### グループ学習室として使用希望の場合

2階視聴覚室が先約済の場合は、グループ学習室としても使用できますので、事前にカウンターへお申し込みください。

蔵本分館 分館利用支援係

Tel:088-633-7415 e-mail:k-sien@lib.tokushima-u.ac.jp